

うわばきをあらった日^ひ

2年^{ねん} ものがたり文^{ぶん} 12ばん

なまえ

金^{きん}よう日の^び夕^{ゆう}がた、けんとは、うわばきをかばんから出^だしました。つま先^{さき}が、土^{つち}で茶色^{ちやいろ}くなっています。

「じぶんであらってみる。」
けんとは、おふろばでブラシを手^てにしました。ごしごし、ごしごし。あわの中^{なか}から、どろが出^でてきました。

思^{おも}ったより、力^{ちから}がいります。
手^てもつめたくなって、とちゅうでやめたくなりました。それでもけんとは、かかとのうらまでこすりました。

つぎのあさ、ベランダにほしたうわばきは、白^{しろ}く光^{ひか}っていいました。「じぶんであらうと、こんなに白^{しろ}くなるんだね。」お母^{かあ}さんが言^いいました。けんとは、少し^{すこ}しわらいました。



(1) 「ごしごし」のいみに合うものを一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア そつとなでるようす

イ 水^{みず}をざあっとかけるようす

ウ あわがしずかにきえるようす

エ 力^{ちから}を入れて、何^{なん}どもこするようす

(2) けんとは、とちゅうでやめたくなったのはなぜですか。一つえらび、記^きごうに○をつけましょう。

ア うわばきがやぶれてしまったから。

イ 思^{おも}ったより力^{ちから}がいて、手^てがつめたくなったから。

ウ お母^{かあ}さんに、やめなさいと言^いわれたから。

エ ブラシがこわれてしまったから。

(3) つぎのあさ、うわばきはどこにほしてありましたか。文^{ぶん}しようから四^{よん}字^じで書^かきぬきましょう。

(4) とちゅうでやめたくなったあと、けんとはどうしましたか。書^かきましょう。

書^かき方^{かた}のヒント

三^{みつ}つ目のだんらくの「それでも」のあとを見^みてみよう。

「くこすつた。」でおわらせる。

うわばきをあらった日ひ

こたえ

2年 ものがたり文 12ばん

なまえ

金きんよう日の夕ゆづがた、けんとは、うわばきをかばんから出だしました。つま先さきが、土つちで茶色ちやいろくなっています。

「じぶんであらってみる。」

けんとは、おふろばでブラシを手にしました。ごしごし、ごしごし。あわの中から、どろが出でてきました。

思おもったより、力ちからがいります。手てもつめたくなって、とちゅうでやめたくなりました。それでもけんとは、かかとのうらまでこすりました。

つぎのあさ、ベランダにほしたうわばきは、白しろく光ひかっていました。「じぶんであらうと、こんなに白しろくなるんだね。」お母かあさんが言いいました。けんとは、少すこしわらいしました。



(1) 「ごしごし」のいみに合うものを一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア そつとなでるようす

イ 水みずをぎあっとかけるようす

ウ あわがしずかにきえるようす

エ 力ちからを入れて、何なんどもこするようす

(2) けんとは、とちゅうでやめたくなったのはなぜですか。一つえらび、記きごうに○をつけましょう。

ア うわばきがやぶれてしまったから。

イ 思おもったより力ちからがいて、手てがつめたくなったから。
お母かあさんに、やめなさいと言いわれたから。

エ ブラシがこわれてしまったから。

(3) つぎのあさ、うわばきはどこにほしてありましたか。文ぶんしょうから四よん字じで書かきぬきましょう。

ベ
ラ
ン
ダ

(4) とちゅうでやめたくなったあと、けんとはどうしましたか。書かきましょう。

(れい) かかとのうらまでこすった。

書き方のヒント

三みつつ目のだんらくの「それでも」のあとを見みてみよう。

「こすった。」でおわらせる。

解答・解説 うわばきを あらった 日（2年・ものがたり文）

この話はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。

もん 問1 エ

二つ目の だんらくに「ブラシを 手に しました。ごしごし、ごしごし。」と あります。力を 入れて、何でも こする ようすです。

もん 問2 イ

三つ目の だんらくに「思ったより、力が います。手も つめたく なって、とちゅうで やめたく なりました」と 書いて あります。

もん 問3 ベランダ

四つ目の だんらくに「つぎの あさ、ベランダに ほした うわばきは」と 書いて あります。

もん 問4 （れい） かかとの うらまで こすった。

三つ目の だんらくに「それでも けんとは、かかとの うらまで こすりました」と 書いて あります。やめないで、かかとの うらまで こすった ことが 書けて いれば ○です。